

2020年10月期 決算説明会

2020年12月21日

 **クミアイ化学工業株式会社**

本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- II. 2020年10月期 実績
- III. 2021年10月期 業績予想
- IV. 前中期経営計画 総括
- V. 新中期経営計画

新型コロナウイルス感染症拡大の影響

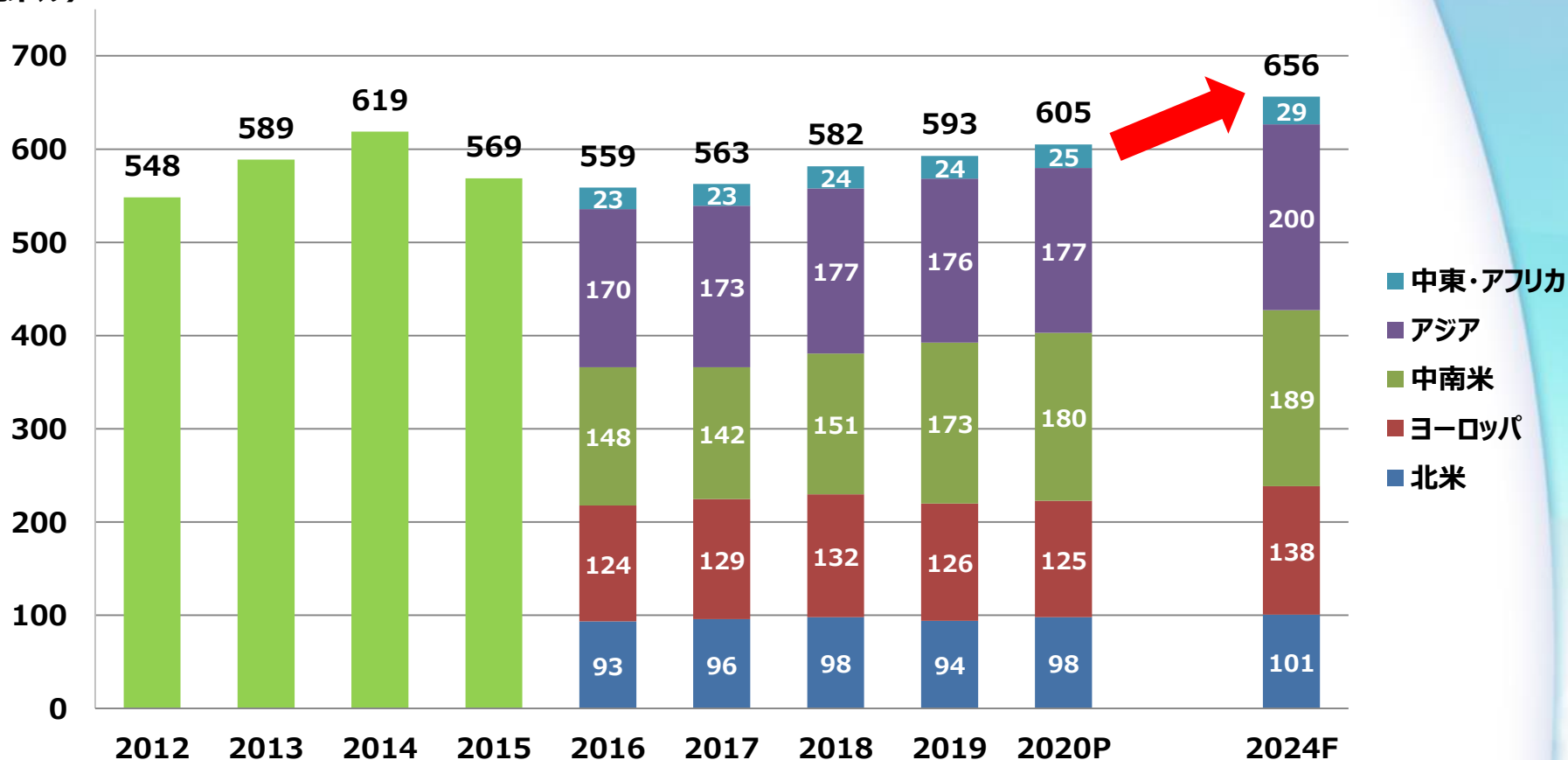
農薬及び農業関連	安定した食料生産の必須資材であり、影響は限定的
国内事業	エフィーダ剤、ベンスルフロンメチル剤が貢献 前年比増収
海外事業	インドのノミニー事業で物流の影響受けるも予算達成 アクシーブ事業は大きな影響受けず大幅増収 前年比増収

化成品	川下産業の停滞による需要減少の影響を受けた
塩素化、精密化学品	繊維・樹脂原料で自動車産業向けの需要減少 前年比減収
発泡スチロール	家電・魚箱向けの需要減少 前年比減収

農薬市場の動向

- ✓ 世界市場は2016年を境に回復基調
- ✓ 国内市場は3,300億円前後で横ばい

(億ドル)



出典 : Agbioinvestor

本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- II. 2020年10月期 実績**
- III. 2021年10月期 業績予想
- IV. 前中期経営計画 総括
- V. 新中期経営計画

2020年10月期 実績

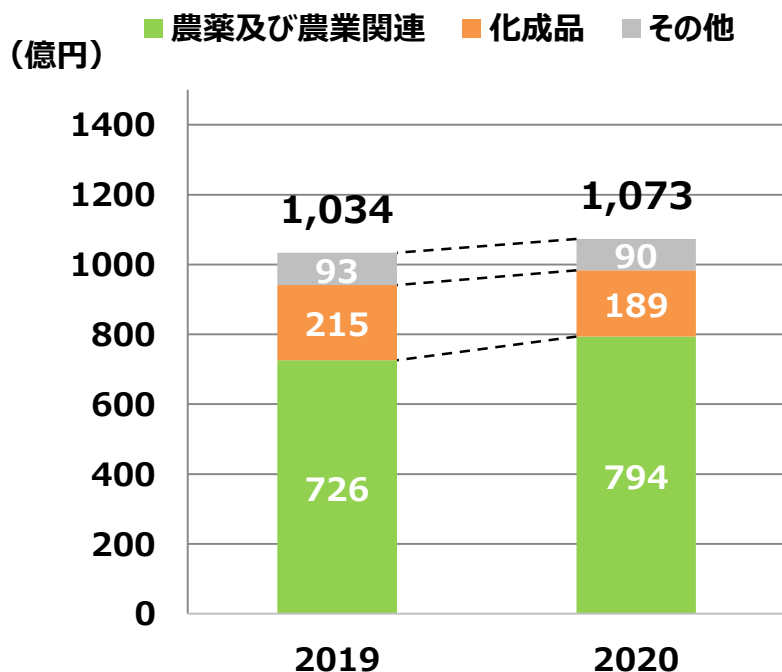
(億円)	2019 実績	2020 業績予想	2020 実績	前年比	予想比
売上高	1,034	1,130	1,073	+39	-57
営業利益	76	80	83	+6	+3
経常利益	97	98	99	+2	+1
当期純利益*1	68	68	66	-2	-2

*1親会社株主に帰属する当期純利益

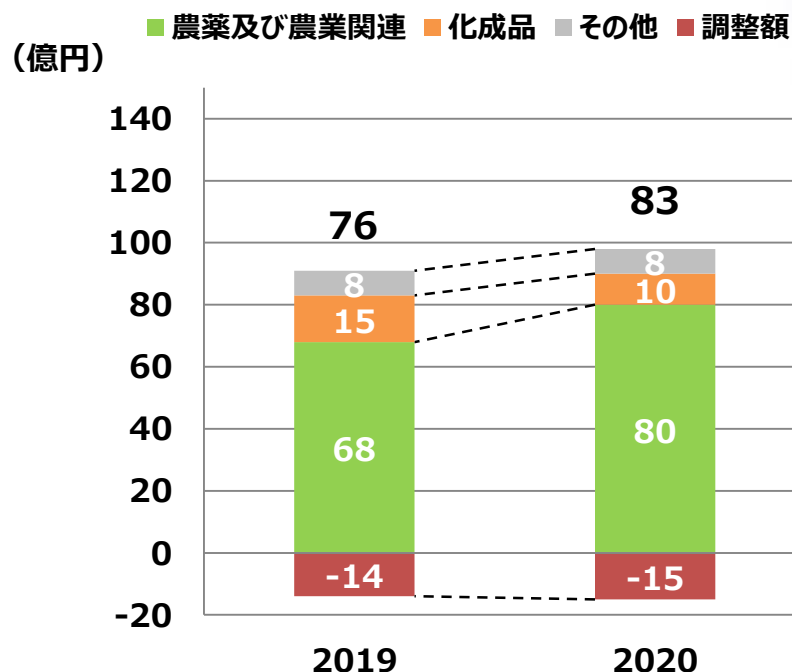
セグメント別売上高及び営業利益

- ✓ 農薬事業は海外でアクシーブ、国内でエフィーダが大きく伸長
- ✓ 化成品事業は新型コロナの影響を受け減収減益

連結売上高



連結営業利益

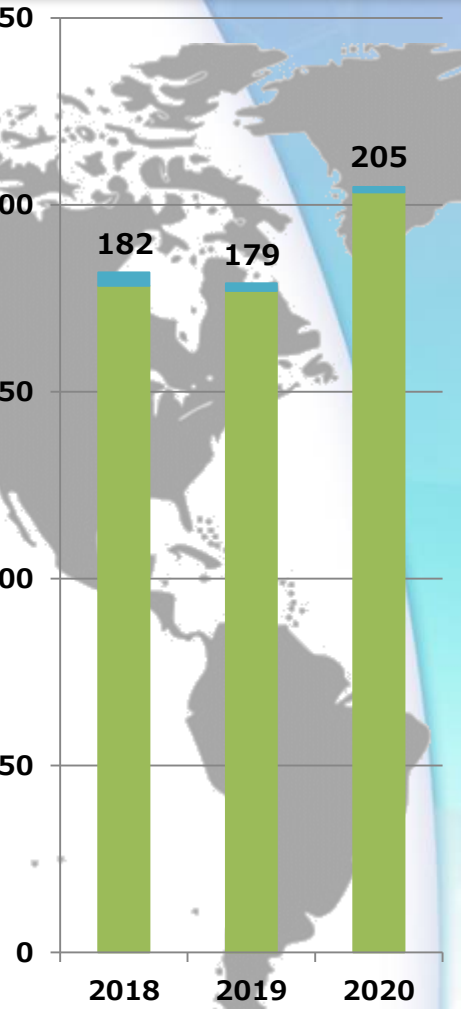
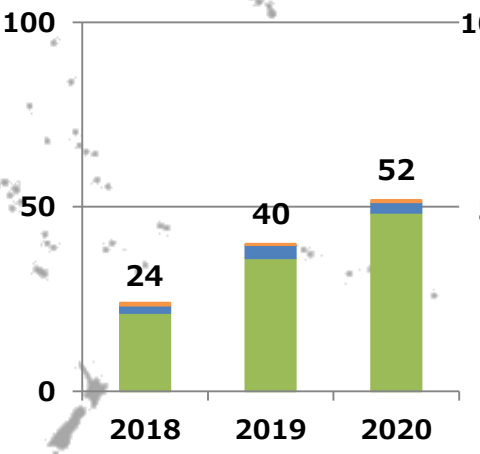
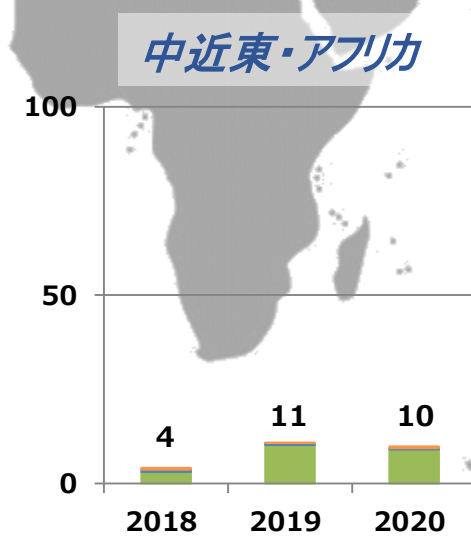
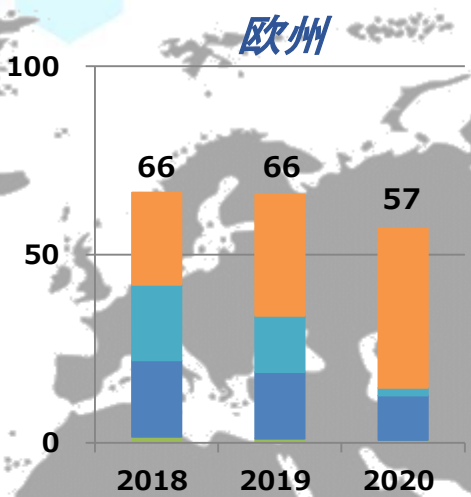


	売上増減	利益増減
農薬及び農業関連	+68億円	+12億円
化成品	-26億円	-5億円
その他	-3億円	+0億円



海外地域別・用途別売上高 (農薬及び農業関連)

(億円)



■ 除草剤 ■ 殺菌剤 ■ 植物成長調整剤 ■ その他

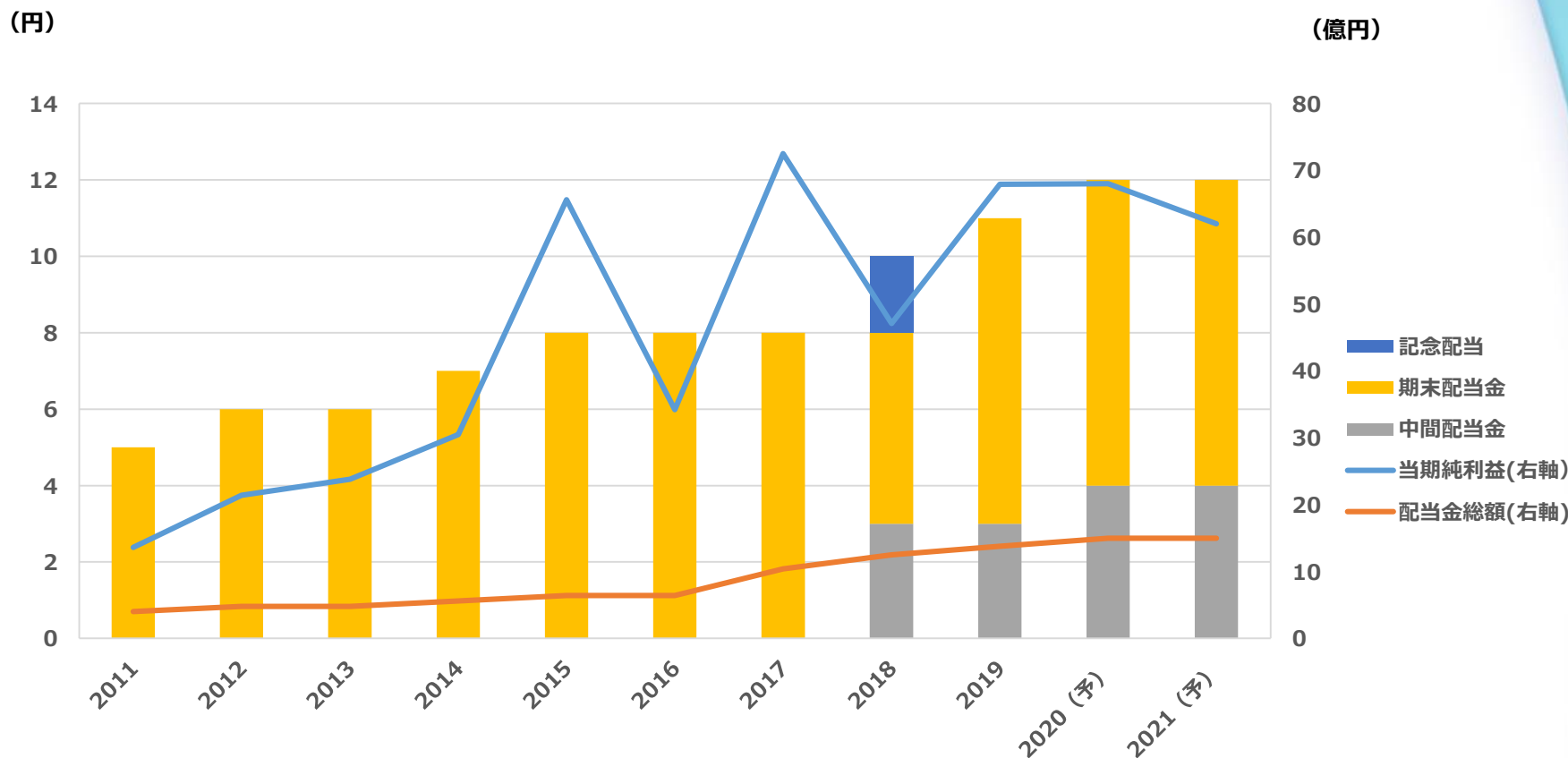
総売上高	794億円
海外売上高	431億円
海外売上比率	54%

株主還元施策

基本方針

収益動向を踏まえた株主の皆様への還元及び企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保などを総合的に判断しつつ、安定した配当を継続して行う

- ✓ 2020年10月期は4円の間配当を実施、8円の期末配当を予定
- ✓ 2021年10月期は4円の間配当、8円の期末配当を予定



本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- II. 2020年10月期 実績
- III. 2021年10月期 業績予想**
- IV. 前中期経営計画 総括
- V. 新中期経営計画

2021年10月期 連結業績予想

	2020実績	2021予想	増減	増減要因
売上高	1,073	1,130	+57	国内農薬事業の増収 化成品事業の回復
農薬及び農業関連	794	814	+20	アクシーブ及び エフィーダ販売増
化成品	189	226	+37	コロナ禍からの回復
営業利益	83	73	-10	調達価格上昇による原価高 販管費、減価償却費の増加 アクシーブ関税税率変更によるコスト増
経常利益	99	92	-7	—
当期純利益*1	66	62	-4	—

*1親会社株主に帰属する当期純利益

2021年10月期 事業計画

農薬及び農業関連事業

- ✓ アクシーブの既存販売国での市場深耕及び新規登録国でのシェア拡大
- ✓ エフィーダの更なる拡販及びディザルタの販売立ち上げ

売上高	794億円（2020） → 814億円（2021） +20億円
アクシーブ （+11億円）	アメリカ、アルゼンチンでの更なる市場深耕 ブラジル、インドでの販売促進
ノミニ （-1億円）	PI-kumiaiによるインド国内での販売促進
エフィーダ （+14億円）	水稲一発処理除草剤分野での更なるシェア拡大 エフィーダを推進力に水稲一発処理除草剤シェアNo.1の奪還
ディザルタ （+3億円）※	自社開発水稲用殺菌剤として販売立ち上げ

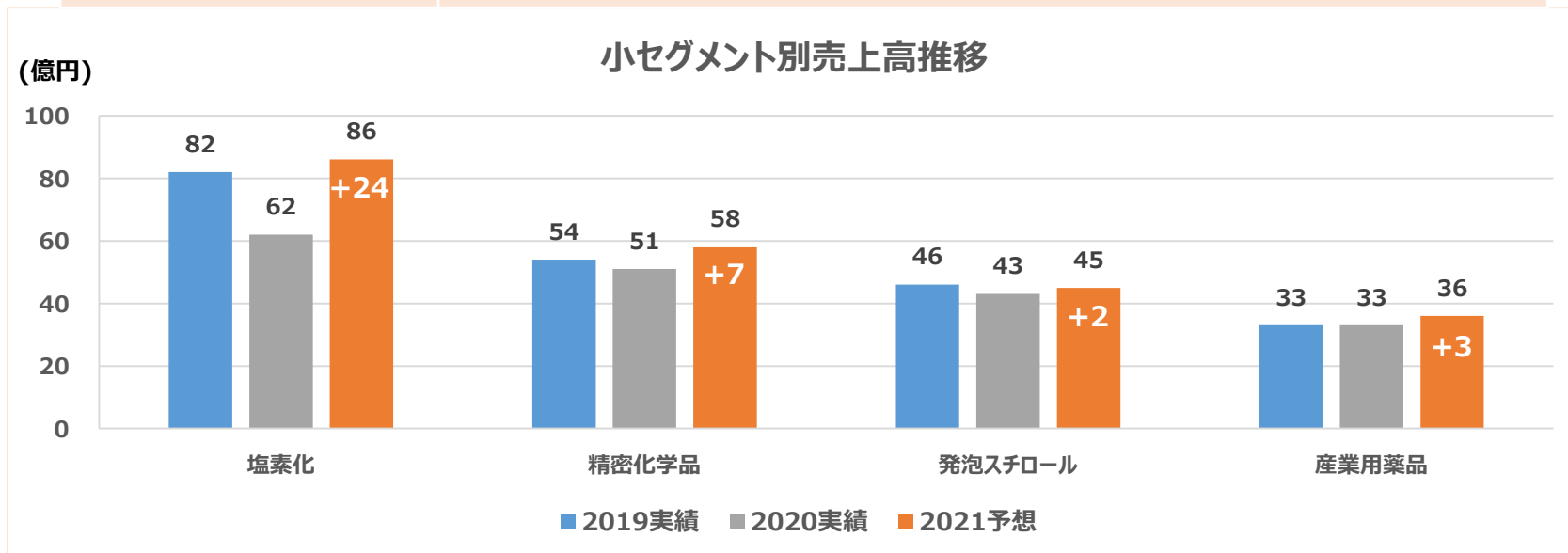
※箱処理剤全体として

2021年10月期 事業計画

化成品事業

✓ 上半期まではコロナ禍の影響が前年並みに残ると予想、下半期には回復を見込む

売上高	189億円（2020） → 226億円（2021） +37億円
塩素化	タイでの第2期投資が上半期に完了、生産販売開始 新規開発品の販売開始を予定
精密化学品	既存製品、新規開発品の拡販
発泡スチロール	設備更新による事業基盤の整備
産業用薬品	事業拡大に向けた取り組み推進



本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- II. 2020年10月期 実績
- III. 2021年10月期 業績予想
- IV. 前中期経営計画 総括**
- V. 新中期経営計画

前中期経営計画（2018～2020）概要

経営基本方針

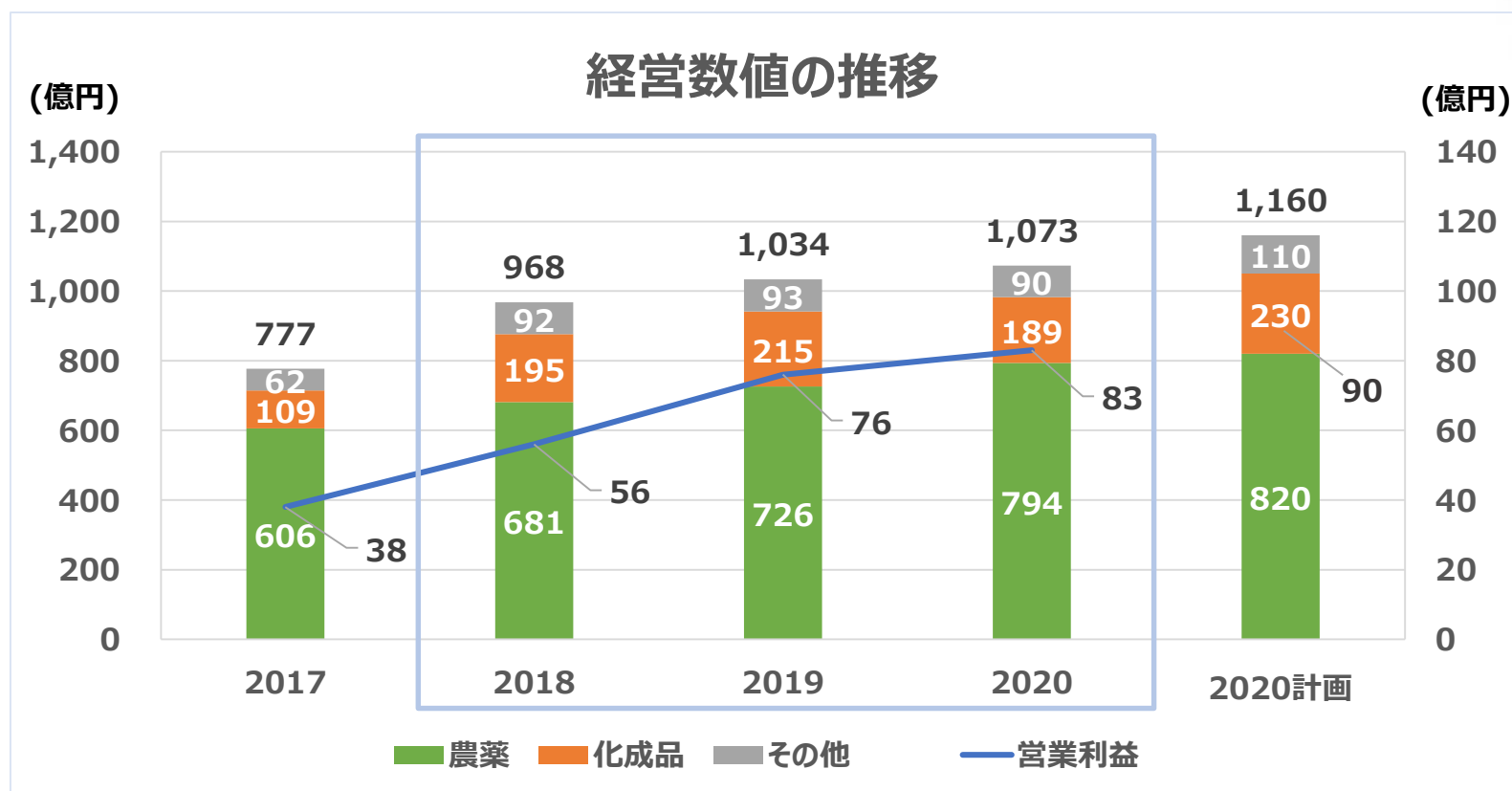
合併によるシナジー効果を早期に発現し、農業生産の課題を解決する研究開発型企業を中心とした“将来に亘って持続的に発展できる強い企業集団”を目指します

重点施策

農薬及び農業関連事業	選択と集中による国内自社開発剤の最大化 アクシーブの早期最大化 インドでのノミニー事業立ち上げ
化成品事業	タイにおける塩素化事業の立ち上げ グループ化成品事業の最適化
研究開発	エフィーダ、ディザルタの登録取得 新規パイプラインの創製
生産・調達	調達ネットワークの最適化 生産技術の革新
働き方改革	ダイバーシティの推進 ワークライフバランスの向上

経営数値推移

- ✓ 中期経営計画中の3事業年度で増収増益を達成
- ✓ 2019年度には連結売上高1,000億円を突破
- ✓ 事業環境の変化、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、最終年度は売上・利益とも計画を未達



成長戦略の実行状況

農薬及び農業関連事業	<p> アクシーブ：北米、オーストラリア、アルゼンチンでの売り上げ拡大 アクシーブ：登録国拡大（インド、ブラジル等、合計16か国） ノミニー：PI-kumiaiによるインドでの現地製造販売開始 エフィーダ：登録取得、日本、韓国での販売開始 ディザルタ：登録取得 M&A、事業提携等：理研グリーンの完全子会社化 ベンスルフロンメチル事業の買収 ペンシクロンの日本での独占販売権取得 </p>
化成品事業	<p> イハラニッケイケミカルタイランドでの生産開始、第2期投資着手 独自技術を活用した新製品開発 </p>
研究開発	<p> エフィーダ、ディザルタの登録取得 新規ダニ剤の開発ステージアップ </p>
生産・調達	<p> 生産・調達体制の強化・最適化による安定供給の実現 </p>
働き方改革	<p> コロナ禍における時差出勤、在宅勤務等の導入、制度化検討中 統合基幹業務システムの導入検討（2020年11月稼働開始） </p>

本日のアジェンダ

- I. 事業環境
- II. 2020年10月期 実績
- III. 2021年10月期 業績予想
- IV. 前中期経営計画 総括
- V. 新中期経営計画**

新中期経営計画策定における基本的な考え方

長期市場環境予測に基づいた「あるべき姿」の設定



「あるべき姿」に向けた積上げ(事業戦略)の設定

クミアイ化学グループの「あるべき姿」

新中期経営計画

現在のクミアイ化学グループ

2021-2023

クミアイ化学グループ
100周年

クミアイ化学グループの「あるべき姿」

クミアイ化学グループの「あるべき姿」

独自技術で豊かなくらしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献する
 フレキシブルで存在感のある企業グループ



セグメント	長期市場環境予測	20年～30年後の「あるべき姿」
農薬及び 農業関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農薬登録要件の強化 2. 生物農薬、バイオスティミュラント、GMO及びゲノム編集作物の拡大 3. 農業への多様なインプットを提供する事業者の登場 4. 国内農家の購買ルートの多様化 5. 人口増による食料需要増 6. ジェネリック市場の拡大 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全性の高い農薬の開発 2. 商品ポートフォリオ、研究領域の拡大 3. 農薬を中核にした独自の事業領域の確立 4. 農家へのソリューション、複合サービスの提供 5. 農薬の需要増、需要国(アジア・アフリカ)への直販ルートの確立 6. 他社との協業、自社製品ポートフォリオの拡充
化成品	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報、再生医療、電気自動車、環境及びエネルギー関連分野伸長 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最先端技術へのアクセス確保 顧客ニーズに即座に対応できる企業 独自の製品、サービスを提供・提案できる企業 M&A、資本提携による新たな商材、製造技術、設備の確保、競争力の強化
事業全体	<ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な開発目標 (SDGs) や循環型経済社会の実現に貢献 2. ESGを重視した企業活動 	

新中期経営計画(2021～2023年度)概要



ビジョン

Create the Future ～ 新たな可能性へのチャレンジ ～

スローガン

スピード、コスト、イノベーション
100年企業を目指した飽くなき挑戦

経営基本方針

革新的な技術開発、事業領域の拡大により、環境変化に対応可能な経営基盤を構築し、人々の暮らしを豊かにする製品・サービスの提供を通して、社会の持続的発展に貢献できる企業集団を目指す



新中期経営計画（2021～2023）概要

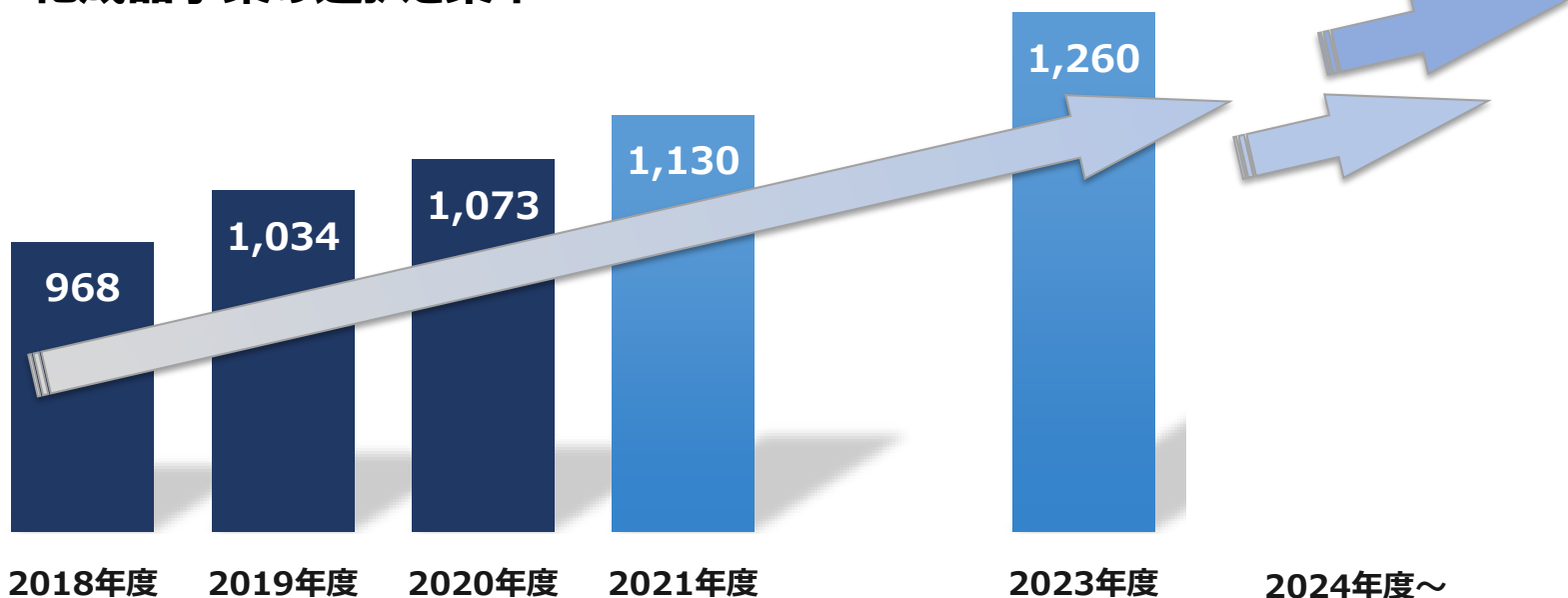
前中期経営計画(2018-2020) Create the Future
～未来を拓く～

新中期経営計画(2021-2023)
Create the Future
～新たな可能性へのチャレンジ～

アクシーブの拡大
新剤上市に向けた研究開発
化成品事業の選択と集中

事業領域・研究領域の拡大
新規開発品の市場投入
最先端技術への参入
研究基盤の整備

100年企業
「あるべき姿」の実現に向けた
施策の実践



重要方針・重点施策

重要方針	重点施策
研究領域、事業領域の拡大	<p>革新的な技術開発による研究領域の拡大</p> <p>新規事業の開拓、新技術の導入による事業領域の拡大</p> <p>成長戦略の推進による既存事業の拡大</p>
販売ルートが多様性確保	<p>海外での販売ルートの多様化</p> <p>新規アイテム・受託テーマの創出による新規販売チャネルの開拓</p>
コスト競争力の確保	<p>製品原価低減に向けた生産体制、調達の最適化</p> <p>生産技術の改善、生産プロセスの自動化による生産性・品質向上とコスト削減</p>
ESGを重視した企業活動	<p>環境負荷の低減を図った製品の開発、生産体制の構築</p> <p>会社情報の積極的な発信</p> <p>グループコンプライアンス体制の強化と推進</p> <p>内部統制システムの的確な整備、運用</p> <p>ステークホルダーへの農薬の必要性・安全性に関する啓発活動の立案と実践</p>

数値目標、研究開発費・設備投資

数値目標

	2020実績	2021予想	2023計画
売上高 (億円)	1,073	1,130	1,260
営業利益 (億円)	83	73	98
ROE (%)	6.9	6.2	7.3



研究開発費・設備投資

(億円)	2018~2020実績	2021~2023計画	主要因
研究開発費	152	175	新規農薬原体の開発
設備投資	145	313	新化学研究所の建設 新製造プラントの建設

重点施策（農薬及び農業関連）

✓ 既存事業及び事業領域の拡大を目指した活動を実施

成長戦略の推進による既存事業の拡大

- ▶ 「アクシーブ」のシェア最大化と新規登録国での早期販売立ち上げ
- ▶ 「エフィーダ」の拡販、新規混合剤開発、海外開発
- ▶ 新規水稲用殺菌剤「ディザルタ」の立ち上げ、販売拡大

新剤創出に向けた研究開発の積極的な推進

- ▶ パイプライン化合物の早期企業化、新規パイプライン化合物の創出

海外での販売ルートが多様化

- ▶ M&A等による販売ネットワークの強化、製品開発の促進

研究開発力強化のための基盤整備

- ▶ 新化学研究所建設プロジェクトの推進

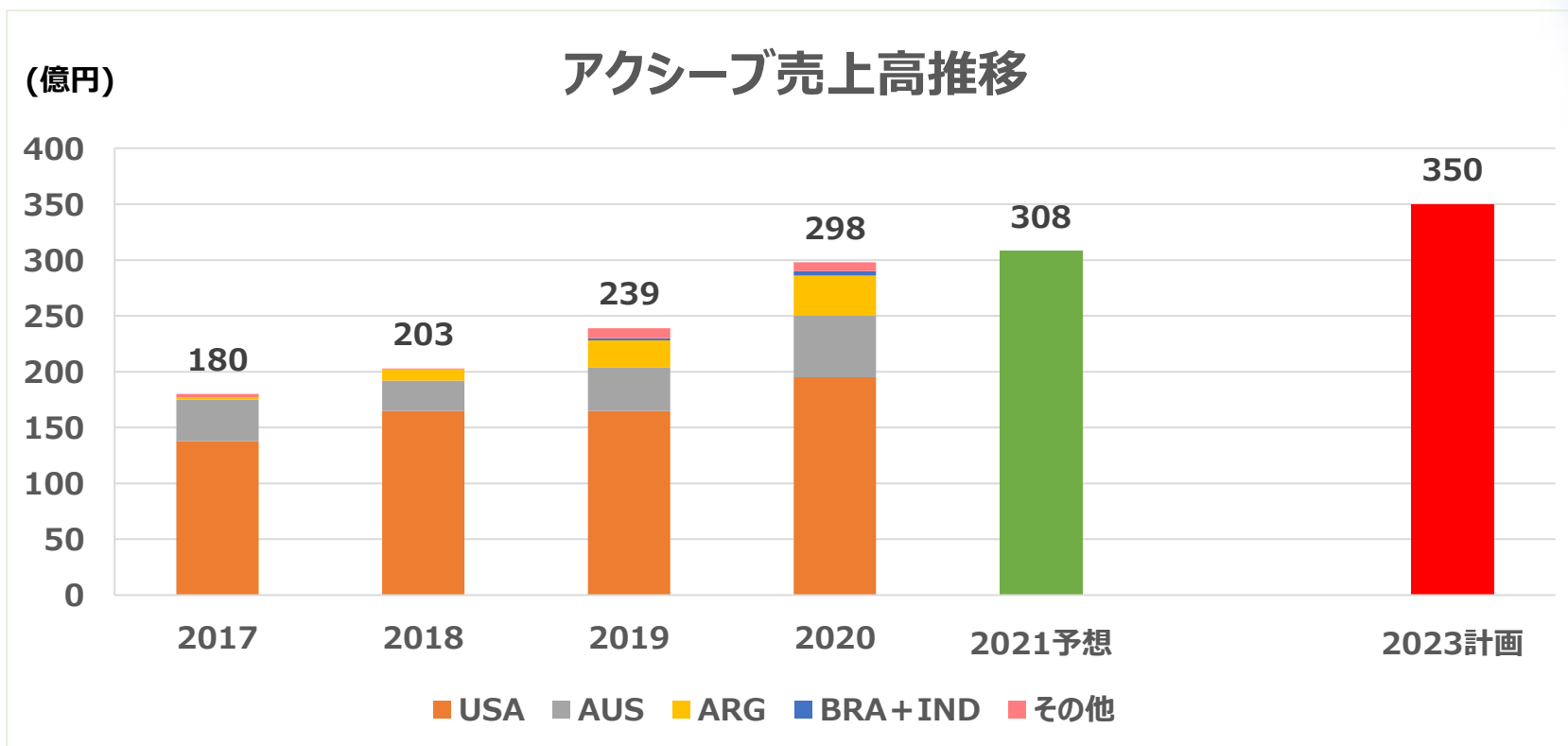
重点施策（農薬及び農業関連）

▶ 「アクシーブ」のシェア最大化と新規登録国での早期販売立ち上げ

✓アメリカ、オーストラリア、アルゼンチン等、既存販売国でのシェア最大化

✓インド、ブラジルなどでの普及拡大への支援

✓ジェネリック対策（ブランド戦略、新規混合剤、知財戦略）



重点施策（農薬及び農業関連）

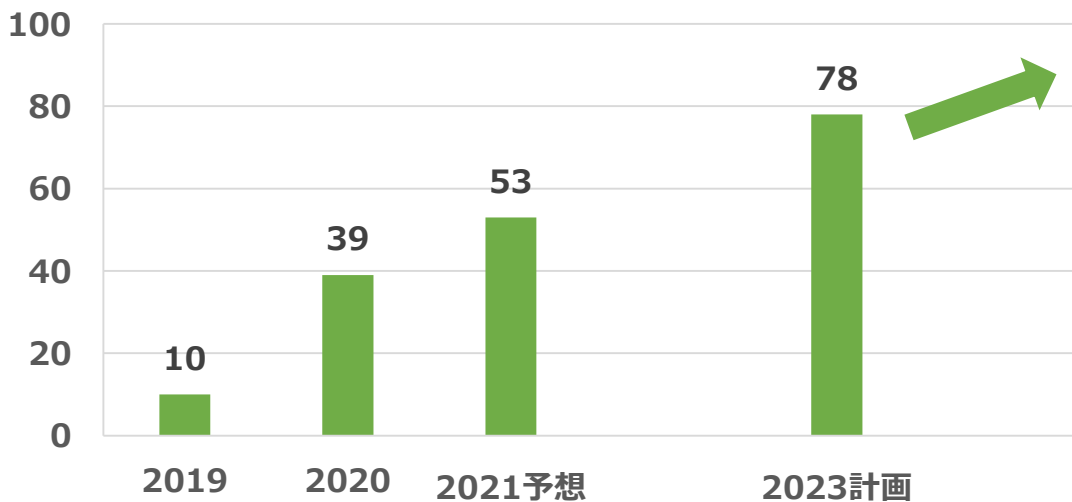


▶ 「エフィーダ」の拡販、新規混合剤開発、海外開発

- ✓ 国内市場でのシェア拡大
→ 水稲一発処理除草剤分野でのシェアNo.1の奪還
- ✓ 新規混合剤開発による製品拡充
- ✓ 海外開発の推進によるエフィーダの最大化
→ アクシーブに次ぐ大型剤への成長

エフィーダ剤売上高推移

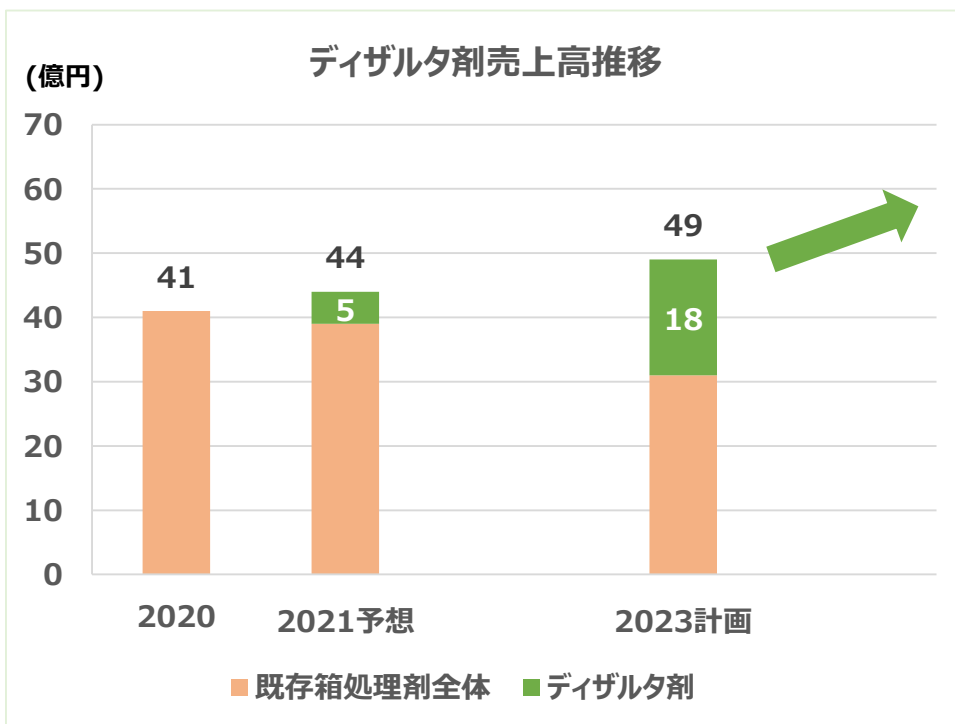
(億円)



重点施策（農薬及び農業関連）

新規水稲用殺菌剤「ディザルタ」による国内シェアの拡大

- ✓ 2021年より新規混合剤3剤の販売開始（商品名：ブーン）
- ✓ 自社開発剤として、箱処理剤分野でのシェア獲得
→ 製品ポートフォリオ内の自社剤比率増による利益性の向上
- ✓ 製品ポートフォリオ拡充に向けた新規混合剤の開発



重点施策（農薬及び農業関連）

パイプライン剤の早期企業化、新規パイプライン剤の創出

- ✓ 新規ダニ剤「フルペンチオフェノックス」の開発推進
- ✓ パイプライン候補化合物の早期開発ステージアップ

パイプライン候補

新規ダニ剤
フルペンチオフェノックス

2010	水稲用除草剤 ピリミスルファン
2011	畑作・芝用除草剤 アクシーブ
2012	園芸用殺菌剤 ピリベンカルブ
2014	水稲・芝用除草剤 フェノキサスルフォン
2018	水稲用除草剤 エフィーダ
2020	水稲用殺菌剤 ディザルタ

重点施策（農薬及び農業関連）

- ・ M&A等による販売ネットワークの強化、製品開発の促進
 - ✓ Asiatic Agricultural Industries社の株式60%の取得を決定

対象会社の概要

会社名	Asiatic Agricultural Industries Pte Ltd
本社及び工場	150 Gul Circle, Singapore
創業	1972年
代表者	Chan Chek Chee (Chairman)
主な事業内容	農薬製造及び販売、農薬企業向けのOEM
資本金	1.2百万シンガポールドル
従業員	70名

想定されるシナジー効果

販売ネットワークの強化・補完

現地に密着した市場情報・ニーズの把握に基づく製品開発促進

開発剤の性能評価場面での協力

製剤の相互受委託

「販売ルートが多様性確保」

重点施策（化成品）

✓ 既存事業の拡大、新規事業の開拓を目指した活動を実施

成長戦略の推進による既存事業の拡大

- ▶ 事業の選択と集中による既存事業の最大化
イハラニッケイタイランド第2プラントの稼働（2021年第2四半期～）

新規事業の開拓、新技術の導入による事業領域の拡大

- ▶ 新製品開発による新規需要の開拓
- ▶ 外部研究機関との共同研究による新規テーマの開発

研究開発力強化のための基盤整備

- ▶ 各事業分野における研究開発設備の拡充
- ▶ 新化学研究所建設プロジェクトの推進

重点施策（化成品）

▶ 事業の選択と集中による既存事業の最大化

- ✓イハラニッケイタイランド第2プラント稼働開始（2021年度第2四半期～）
- ✓アラミド繊維原料2種の生産能力拡充（各4,000 t /年）が完了

第1プラント（2018年9月～）



IPC（イソフタル酸クロリド）プラント
▶ 防護衣料、難燃剤など向け

第2プラント（2021年度第2四半期～）



TPC（テレフタル酸クロリド）プラント
▶ 防弾チョッキ、光ファイバー保護樹脂・ゴム強化剤など向け

重点施策

▶ 新化学研究所建設プロジェクトの推進

- ✓ 3研究センターを統合した最新鋭の化学研究所を建設
- ✓ 研究拠点統合でのシナジー効果の最大化によるイノベーションの創出、研究開発プロセスの更なる強化
- ✓ モノづくりの中核として既存事業のみならず新規事業の創出も担う



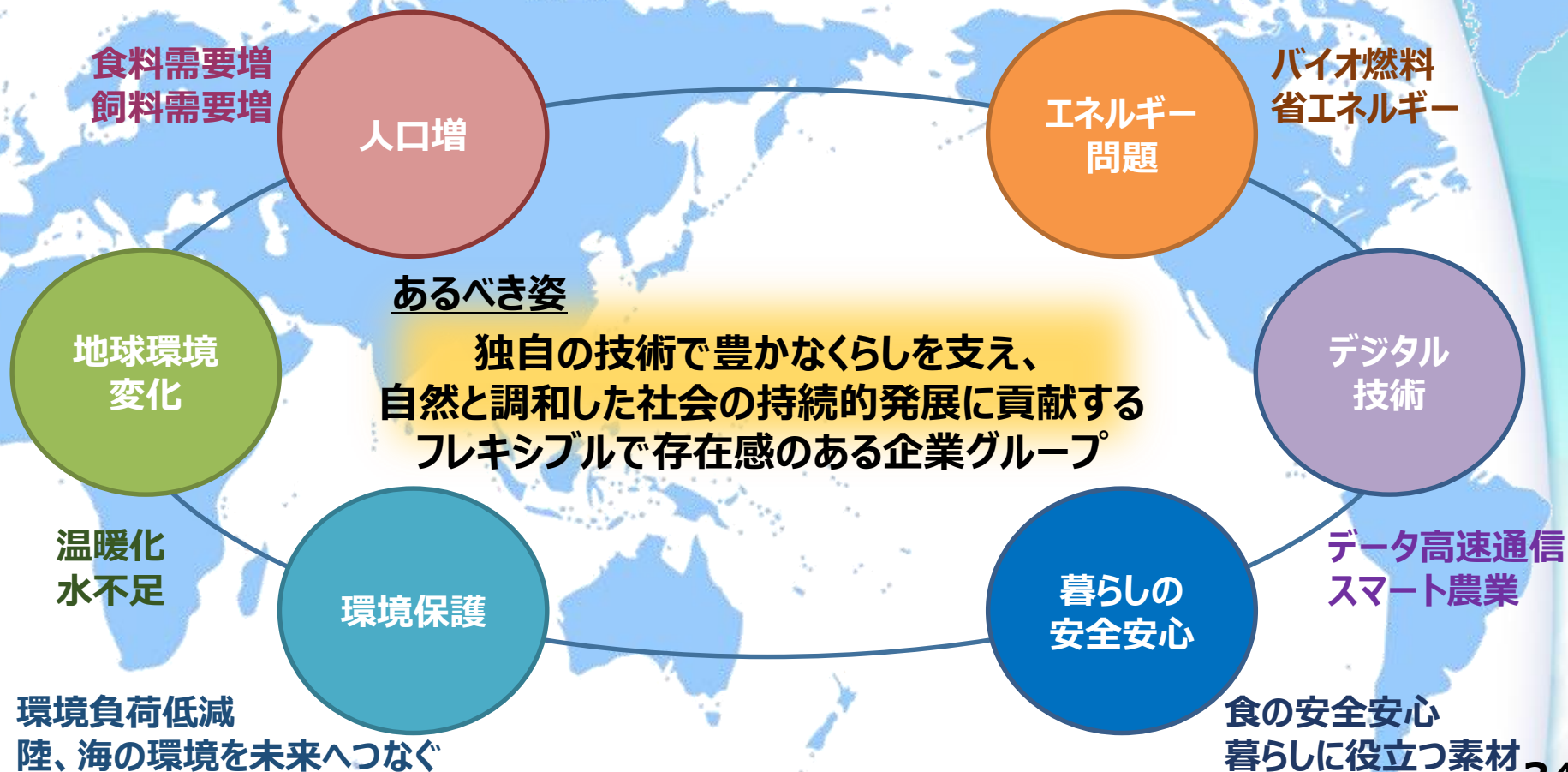
所在地	静岡市清水区渋川100番地
投資総額	約70億円
着工	2021年下半期予定
竣工	2023年上半期予定



SDGs、ESGへの取り組み

企業理念

私たちは創造する科学を通じて「いのちと自然を守り育てる」ことをメインテーマとし、安全・安心で豊かな社会の実現に貢献します



SDGs、ESGへの取り組み

「企業としての発展・成長」、「持続可能な社会」に向けた12項目の重要課題

農薬イノベーション型製品の創出	働きがいと人材の育成・活用
コンプライアンスの実現	サプライチェーン
リスクマネジメントの推進	労働安全衛生
IRコミュニケーション	顧客コミュニケーション
地域コミュニケーション	ダイバーシティ
環境安全（ISO14001）とエネルギー・資源の使用量の削減	
品質管理（ISO9001）と製品安全・消費者安全	

社会の持続的な発展に向けて、人々の暮らしを豊かにする「革新的な製品やサービスの開発・提供という付加価値の創出」を、「働きやすい環境の中で働きがいを持った従業員が達成」していく



**重要課題への取り組みによって企業価値を創出
 社会の持続的な発展に貢献できる企業グループとして成長**

新たなガバナンス体制の構築

✓ 経営機能と業務執行の責任区分を明確にし、経営の健全性と効率性を高める

執行役員制度の拡充

「常勤役員会」を廃止

新たな業務執行の意思決定機関として「執行役員会」を設置

「執行役員会」は常勤の取締役、全執行役員および常勤監査役で構成
議長は取締役社長

執行役員の役位に「専務執行役員」、「常務執行役員」、「上席執行役員」を追加

取締役等に係る変更

取締役の上限を9名とし、取締役総数に占める社外取締役の割合は1/3以上とする

取締役の役位は、「取締役社長」、「取締役会長（任意設置）」および「取締役」

取締役会の下に「指名・報酬委員会」を設置

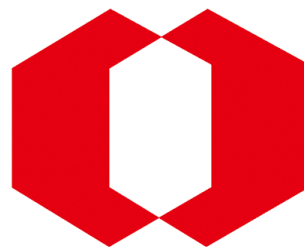
「指名・報酬委員会」の委員総数は5名(内3名が社外取締役)、委員長は取締役社長

譲渡制限付き株式報酬制度の導入

取締役の退職慰労金制度の廃止

ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る



ワミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>

クミアイ化学工業株式会社

経営管理本部 総務人事部 広報・IR課

TEL: 03-3822-5036

FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください <http://ir.kumiai-chem.co.jp/>